

# ディリー・ジーザス・ニュース #257

## 受難週の火曜日…試練と教える日

サドカイ派がイエスに復活について質問する  
ルカ20:27-39 (並行聖書:マタイ22:23-33、マルコ12:18-27)

27 その同じ日に、復活はないと主張するサドカイ派の人々が、イエスのもとに質問をしに来た。

28 彼らは言った。 「先生、モーセはこう書いてあります。『ある人の兄弟が妻を残して死に、子供がいない場合は、その人はその未亡人をめとて兄弟のために子孫を残さなければならない。』(申命記 25章5節)

29 さて、私たちの間に七人の兄弟がいました。最初の兄弟はある女をめとりましたが、子どもを残さずに死にました。<sup>30</sup> 次男も、<sup>31</sup> 三男もその女をめとりましたが、同じように七人とも子どもを残さずに死にました。<sup>32</sup> 最後に、その女も死にました。

33 さて、復活のとき、彼女はだれの妻になるのでしょうか。MTのLの七人全員が彼女と結婚していたのに。

34 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、聖書も神の力も知らないから、思い違いをしているのだ。

L 「この世の人々は結婚したり、嫁いだりします。<sup>35</sup> しかし、後の世と死者の中からの復活にあずかるにふさわしいとみなされる人たちは、めとることも、とつぐこともありません。<sup>36</sup> 彼らはもはや死ぬことがありません。なぜなら、彼らは天使のようになるからです。彼らは復活の子であるので、神の子なのです。

37 「しかし、死者の復活についてですが、神があなた方に語ったことを読んだことがないのですか。燃える柴の記述の中で、モーセでさえ死者が復活することを示しました。彼は主についてこう言っています。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』

38 「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。神にとってはすべての人が生きているからです。<sup>あなた</sup>は大いに誤解しています。」

39 群衆はこれを聞いて、イエスの教えに驚いた。律法学者の中には、「先生、よくおっしゃいました」と答えた者もいた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日

## デイリー・ジーザス・ニュース #257

タイトル

7. サドカイ派がイエスに復活について質問する

コメント：

「Testing Tuesday」でイエスが答えた3つの質問のうち、2番目は最も難しい種類の、仮説に基づいた質問でした。架空のシナリオは、質問者に不可能な難問を作り出す上で大きな利点を与えます。

イエスは、皇帝への貢納に関するパリサイ派とヘロデ派の問い合わせに答えて、彼らを打ち負かしたばかりだった。サドカイ派は、はるかに人気があり、数も多かった政治的・宗教的ライバルたちが打ち負かされたのを見て、きっと喜んだに違いない。今度は彼らがイエスに全力を尽くす番だった。

この問題は、律法の規定にかかっていました。律法の規定では、結婚して子供を残さずに亡くなった男性の未婚の兄弟は、その未亡人と結婚し、亡くなつた兄弟と同じ家系に子供をもうけるよう命じられていました。この仮定のシナリオでは、7人の兄弟が同じ女性と結婚し、全員が子供を残さずに亡くなつたとします。

サドカイ派は旧約聖書に肉体の復活の約束が含まれていると信じていなかつたため、この奇妙な状況を利用して、復活が地上での生活と両立しないことを証明しようとした。天国でその女性は誰の妻になるのでしょうか？

イエスの答えは、事実上全知の知恵が人間の最も狡猾な策略を打ち碎くもう一つの例でした。主はまず、サドカイ派の問題の二つの原因を特定されました。彼らは聖書を正しく理解していなかつたため、神の力について無知でした。この二重の災難によって、サドカイ派は復活と永遠の命の現実についての真理を理解し、知ることができませんでした。

イエスは、結婚は地上の、一時的な制度であると説明しました。天国では永遠に存続するものではありません。イエスだけが、花嫁である教会と永遠に結ばれるのです。結婚は永遠ではなく、この世に限られるという啓示は、サドカイ派の質問を無意味なものにしました。

イエスはその後、サドカイ派が信じ、真理として受け入れていた聖書の一節から、復活とそれに続く永遠の命が事実であることを証明しました。神は、ご自身が現在「アブラハム、イサク、ヤコブの神」であると言わされました。彼らは皆、肉體的には死んでいました。サドカイ派の考えでは、これは彼らがもはやいかなる形でも存在しないことを意味していました。サドカイ派は唯物主義者であり、生命は物理的・生物学的なものに過ぎず、靈的・永続的な性質は含まれないと信じていました。生命は死によって永遠に終わるのです。

イエスは、神がモーセに現在形で語りかけ、現在、ご自分の前に生きているアブラハム、イサク、ヤコブの現在の神であると主張したことを指摘しました。神がこれらの言葉を語ることができるためにには、永遠の命が現実でなければなりません。

## ディリー・ジーザス・ニュース #257

この説明をこれまで聞いたことのある者は誰もいなかった。イエスがそれを語った時、群衆も律法学者も共に驚愕した。しかし、イエスの解釈の論理的かつ聖書的な一貫性を否定できる者は誰もいなかった。サドカイ派はイエスの答えに関して、これ以上いかなる議論もできなかつた。「あなたはひどく誤解している」とイエスが結論づけた時、彼らはイエスの正しさを認めざるを得なかつた。

イエスは神殿の境内で二度目の引っ掛け質問を受け、真実の光の中で難なく答え、敵を恥辱と驚愕に陥れた。イエスを攻撃し続けたいという欲望は、呪われたいちじくの木のように枯れつつあつた。イエスに最後の、力の抜けた三番目の質問が投げかけられることになる。それが明日の朗読である。

### 応用：

イエスは、私たち一人ひとりに永遠の存在を与えると常に教えられました。天国に行くか地獄に行くかは、私たち自身が選択するのです。この事実は、人々がこの時代に、この地上に、この肉体をもつて、来るべき永遠の時代の価値観と優先順位を念頭に置きながら生きることを不可欠にしました。

この地上での命は、来世における永遠に比べれば取るに足らないものです。唯一賢明なのは、今の肉体におけるこの束の間の命を、天の神の御前で過ごす永遠の命に備えるために使うことです。地上で人が犯す最も愚かな行為は、この命を地獄での永遠の命を確保するために使うことです。悲しいことに、ほとんどの人がそうしています。

私たちは皆、聖書と神の力を誤解するという致命的な誤りを避けるよう注意しなければなりません。現代世界では、あまりにも多くの人が古代のサドカイ派に倣い、この二つの重大な事柄において「大きな誤解」をしています。この世と永遠の世界における私たちの人生の質は、悔い改め、聖書の真理を私たちを救う神の力として受け入れることにかかっています。

昨日よりも聖書の理解を深めるために今日何ができるでしょうか。

これを日常生活にどう取り入れたらいいでしょうか？